

平成25年度の主な事業報告

社会福祉法人上州水土舎

社会福祉事業

水土舎(多機能型通所就労支援施設 就労継続B・就労移行支援事業)

定員・現員 就労移行支援事業 6名、就労継続B 32名

ハムソーセージ部門では「ごっつお便」の商品を中心に前年度の売上約5000万円だった。26年度は更に伸びることが予想される。

伸びた割に収益が伸び悩んだので商品構成の見直しが急務。

養鶏については、産卵率から鶏の交代を計画通りにきちんと行うことにより、安定した卵の数の確保に努めた。H26.2月の大雪被害により鶏舎が全壊したが、現在は仮設鶏舎で産卵数も少しずつ増えてきている。

上州地鶏を開始する予定だったが大雪被害により導入が流れてしまった。鶏舎が復旧すれば開始できる。上州地鶏生産組合の役員になり、今後積極的に地鶏に関わっていく。

農業は ①地域との連携②イベント性③重度者も参加できる野外活動④施設イメージ等のポジティブ面を維持しつつ、可能な範囲で縮小、ブルーベリーは現状維持でいく。

ジャムは ラベルを一新し高級感をうちだした。原材料を保存する際に腐らせてしまったので今年度は特に気を付ける。

納豆の製造販売は、安定した高品質の商品製造には成功している。販路の開拓をめざす。

就労支援事業の合間に 音楽教室と表現(絵画)教室を行っている。

よろずや寒春(多機能型通所就労支援施設 就労継続B・就労移行支援事業)

定員・現員 就労移行支援事業 6名、就労継続B 21名

H26.4.1～定員増し就労継続B型が16名から22名になった。

肉屋の技術向上を目指し、福祉や医療関係だけでなく販路の拡大も行っていく。移動販売車を活用し、酒類販売も始めることで収益の確保をめざす。キッチンとした経理処理。福祉職としての職員の自覚を促し、資質向上を図る。

甘楽富岡自立生活支援センター

第三岡本荘(定員7名)が平成26年4月1日より開所、現状ではホームが9カ所で定員の合計が55名となった。制度改正によりH26.4.1～グループホームに一元化した。

富岡甘楽自立支援生活サポートセンター・ムゲン

定員20名。

音楽教室や支援プログラムもかなり軌道にのってきました。今後よりよいプログラムへ更新していきます。ムゲンの利用者だけを対象とした音楽教室も行っています。

世間で使われている日常のコミュニケーション・ツールで済ませられる支援を重視し、今後も構造化は必要以上には行いません。SSTの導入を検討している。今年から施設の花壇の整備、小さな農地で蔬菜園芸なども取り入れていきたい。生活の質の向上を目指したい。

移動支援事業

屋外での移動に困難がある者に対し、外出のための支援を行うことにより地域での自立生活及び社会参加を促進します。水土舎以外の障害者の利用も漸増しています。今年度は更にサポーターの数を増やし、更に充実したサポートを行っていきたい。

相談支援事業

計画相談件数が膨大な数になっている。富岡圏域は みのり支援センター、富岡甘楽相談支援センター・もんじゅ、ワンセルフの3者しか相談支援事業所がないので手分けして業務を分担する。

公益事業

①日中一時支援事業を行っています。

収益事業

なし